

平成 27 年度

事務の点検及び評価報告書

平成 28 年 8 月

神石高原町教育委員会

目 次

はじめに	1
I 教育委員会の事務の点検と評価制度の概要	
1 点検と評価の趣旨	2
2 対象年度	2
3 点検と評価の対象事業	2
4 点検と評価の方法	2～3
II 教育委員会の活動状況及び活動概要	
1 教育委員会の活動状況	4～6
2 教育委員会の活動概要	7～12
III 点検評価の結果	
1 確かな学力の向上	13
2 豊かな心や健やかな体の育成	14
3 信頼に応える学校づくり	15
4 耐震化対策	16
5 連携型中高一貫教育の推進と持続可能な中等教育システムの確立	17
6 食育の推進	18
7 学習機会の提供及び学習環境づくり	19
8 図書館の充実及び図書情報の発信	20
9 人権尊重への意識高揚，推進体制の充実	21
10 体育協会並びにスポーツ少年団への支援	22
11 質の高い芸術並びに文化の提供	23
12 文化財の保存及び継承	24
IV 外部評価委員の意見	
1 教育委員会の活動	25
2 点検評価票	25～27
3 総合評価	27
V 資料	
1 平成27年度自己評価表（総括表）	28～31
2 平成27年度神石高原町教育委員会経営計画	32

は じ め に

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和31年法律第162号（以下「地教行法」という。））第26条では、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」と規定されています。

神石高原町教育委員会では、この地教行法の規定に基づき、今後の効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、「教育委員会の自己点検並びに評価」を実施し、教育に関する学識経験を有する者の意見を付した報告書としてまとめました。

教育委員会では、今回の自己点検並びに評価の結果について、町民の皆様に公表するとともに、皆様のご意見を次年度以降の事業の立案に反映することにより、教育行政の更なる推進に努めてまいりたいと考えておりますので、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年8月

神石高原町教育委員会

I 教育委員会の事務の点検と評価制度の概要

1 点検と評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検と評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に報告するとともに、公表することが義務付けられています。

この報告書は、同法の規定に基づき神石高原町教育委員会が行った点検と評価の結果をまとめたものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 対象年度

平成27年度

3 点検と評価の対象事業

点検と評価の対象は、神石高原町長期総合計画（平成19年度～平成28年度）の基本計画に位置付けられている、①学力の定着と向上、②教育の環境づくり、③生涯学習の推進、④豊かな歴史と文化の育成及び振興の4施策に関し、平成27年度教育行政方針において、主要な施策として位置付けて実施した12事業について点検と評価を実施しました。

4 点検と評価の方法

点検と評価にあたっては、評価指標等を設定し、次項の表のとおり4段階の評価としました。

区 分	内 容
A	目標は、十分達成された。
B	目標は、達成された。
C	目標は、十分に達成できなかった。
D	目標は、全く達成できなかった。

なお、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第2項の規定による「教育に関し学識経験を有する知見の活用」に関しては、広い観点から知見を期して、学校教育、社会教育分野での教育や人材育成に携わった経験をもち識見を有する者として、これまで神石高原町教育委員会事務局や小学校で教職を務められました、前油木小学校長の 高 石 昭 文 氏 からご意見とご助言をいただきました。

Ⅱ 教育委員会の活動状況及び活動概要

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会教育長・委員

職名	氏名	性別	備考
教育長	馬屋原健治	男	元教育関係者
委員 (教育長職務代理者)	山本剛久	男	元教育関係者
委員	中岡康典	男	自営業
委員	田邊孝章	男	自営業
委員	藤原和則	男	元団体職員

(2) 教育委員会会議の開催状況

定例会 12回 臨時会 1回

(3) 教育委員会会議での審議状況

議決の状況

議案番号	議案名	議決日
17	神石高原町教育委員会教育長代行を指定する規則の廃止について	H27.4.17
18	神石高原町総合教育会議設置要綱の制定について	〃
19	神石高原町立学校評議員の委嘱について	〃
20	神石高原町立学校関係者評価委員の委嘱について	〃
21	平成28年度に小・中学校で使用する教科用図書の採択基本方針について	H27.5.28
22	神石郡教科用図書採択地区の採択事務に関する規約について	〃

23	神石高原町社会教育委員の選任について	〃
24	神石高原町公民館運営審議会委員の選任について	〃
25	神石高原町図書館運営協議会委員の選任について	〃
26	平成 27 年度要保護及び準要保護児童・生徒の認定について	〃
27	豊松学校給食共同調理場及び三和給食共同調理場運営委員会委員の任命について	〃
28	神石高原町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について	H27.6.26
29	中央公民館長の解任について	〃
30	中央公民館長の任命について	〃
31	神石高原町社会教育委員の選任について	〃
32	神石高原町公民館運営審議会委員の選任について	〃
33	神石高原町文化財の指定について 棟札（正光寺鐘楼門）諮問手続き	〃
34	平成 28 年度から使用する中学校教科用図書の採択について	H27.8.5
35	平成 28 年度特別支援学級において使用する教科用図書の採択について	〃
36	平成 27 年度要保護及び準要保護児童・生徒の認定について	〃
37	神石高原町図書館運営協議会委員の選任について	〃
38	神石高原町文化財の指定について 棟札（大崎領右衛門）	〃
39	神石高原町文化財の指定について 棟札（正光寺鐘楼門）	〃

40	神石高原町シルトピアカレッジ管理運営規則の一部改正について	〃
41	平成 26 年度神石高原町教育委員会事務の点検及び評価について	H27.8.26
42	神石高原町文化財の指定について	〃
43	神石高原町就学指導委員会規則の一部を改正する規則について	H27.9.29
44	平成 27 年度要保護及び準要保護児童・生徒の認定について	H27.10.28
45	教育支援委員会への諮問について	〃
46	神石高原町文化財指定申請の否決について	H27.11.25
47	神石高原町文化財の指定について	〃
48	平成 28 年度特別支援学級において使用する教科用図書の採択について	H27.12.25
1	平成 28 年度特別支援学級において使用する教科用図書の採択について	H28.1.29
2	平成 28 年度特別支援学級において使用する教科用図書の採択について	H28.2.26
3	神石高原町公の施設における指定管理者の指定について条例を議会提案することについて	〃
4	町有施設の管理に伴う関係条例の整備について	〃
5	神石高原町文化財の指定について 神道裁許状（7 員）	〃
6	神石高原町文化財の指定について 証文（1 員）	〃
7	平成 27 年度準要保護児童・生徒の認定取り消しについて	〃
8	平成 28 年度特別支援学級において使用する教科用図書の採択について	H28.3.25
9	平成 27 年度準要保護児童・生徒の認定取り消しについて	〃

10	平成 28 年度神石高原町立学校医の委嘱について	〃
----	--------------------------	---

2 教育委員会の活動概要

(1) 各種会議への出席

会 議 名	出席者	開催日	場 所
平成 27 年度神石高原町人権擁護委員連絡会総会	教育長	H27.4.9	帝釈峡スコラ
平成 27 年度第 1 回広島県市町教育長会議	教育長	H27.4.13	広島市
平成 27 年度第 1 回東部教育事務所管内教育長会議	教育長	H27.4.28	尾道市
平成 27 年度神石郡 PTA 連合会定例総会	教育長	H27.5.9	油木小
府中税務署管内租税協議会総会	学校教育課長	H27.5.13	府中市
平成 27 年度全国町村教育長会定期総会・研修会	教育長	H27.5.21~22	東京都
平成 27 年度広島県市町教育委員会連合会定期総会	教育長職務代理者	H27.5.27	広島市
第 10 回中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	教育長及び委員	H27.7.23	倉敷市
平成 27 年度広島県公立学校施設整備期成会総会	学校教育課長補佐	H27.7.27	広島市
平成 27 年度中国 5 県町村教育長研究大会（島根大会）	教育長	H27.8.20~21	島根県奥出雲町
第 56 回広島県公立小中学校教頭研究大会	教育長	H27.10.20	広島市
平成 27 年度広島県市町教育委員会委員研修会	教育長及び委員	H27.11.12	広島市
租税教育推進校等表彰式	教育長	H27.11.17	府中市
平成 27 年度第 2 回東部教育事務所管内教育長会議	教育長	H27.11.19	尾道市

平成 27 年度広島県町教育長会研修会	教育長	H27.11.20	坂町
平成 27 年度第 2 回広島県市町教育長会議	教育長	H28.1.27	広島市
油木高等学校学習発表会	教育長	H28.2.10	油木高校

(2) 議案以外の報告・協議状況

開催日	定例会における報告・協議内容
H27.4.17	教育委員会教育長・委員の任期について
〃	平成 26 年度英語検定補助金交付実施状況について
〃	平成 27 年度就学児童・生徒数について
〃	平成 27 年度学校教育の重点について（要点説明）
〃	平成 26 年度町内中学校の高校進学状況について
〃	平成 27 年度緊急体制について
〃	就学指導委員会の答申について
H27.5.28	スクールバス（古川コース）事故の経過報告
〃	県内市町における新教育委員会制度の状況について
〃	中学生向け公設塾開設の方向性について
〃	神石高原ティアガルテングランドオープンの案内について
〃	「世界一大きな絵 2020」作成への取り組みについて
〃	前回の課題について 学校評議員と学校評価委員の活動状況

〃	はやぶさ塾，海外交流支援事業，来見小進入路工事，来見小非構造物耐震化工事，豊松小給食棟通路補修工事，6月補正予算，豊松小グランド陥没と旧照明柱・体育倉庫開閉扉シャッター・体育館付属倉庫の防水とシャッター改修，油木小体育倉庫設置，三和中天井扇設置など
H27.6.26	平成27年度6月定例議会（議案・補正予算）の状況について
H27.7.23	県教育長ミーティングの状況について
〃	豊松学校給食共同調理場について
H27.8.5	平成27年度成人式について
〃	A L Tの着任について
〃	「家庭学習等に係るアンケート調査」の結果について
〃	平成27年度油木高校入学希望状況について
〃	油木高校海外交流推進事業（YUKI・グローバル・エデュケーションプログラム）の実施状況について
H27.8.26	平成26年度教育委員会関係決算について
〃	平成27年度9月補正について
〃	豊松学校給食共同調理場運営委員会の協議内容について
H27.9.29	平成27年度「全国学力・学習状況調査」「広島県『基礎・基本』定着状況調査」結果について
〃	豊松学校給食共同調理場管理運営説明会の実施状況について
〃	議会総務文教常任委員会と教育委員会委員の合同学校訪問について
〃	広島県公立学校教職員人事異動方針について
〃	児童生徒の区域外就学の承認について

H27.10.28	豊松学校給食共同調理場調理等業務の民間委託スケジュールについて
〃	豊松小学校グラウンド陥没調査の中間報告について
〃	「中高一貫教育講演会」の概要について
〃	広島県市町村教育委員会連合会委員研修会について
H27.11.25	シルトピアカレッジ図書館の指定管理について
〃	学校訪問の状況について
〃	豊松学校給食共同調理場の今後の予定について
〃	豊松小学校グラウンド陥没調査報告と今後の計画について
〃	教育委員会委員の任期について
H27.12.25	教育委員会委員の就任について
〃	平成 28 年度児童生徒の就学について（教育支援委員会答申）
〃	区域外就学（転入）について
〃	平成 27 年 12 月補正について
H28.1.29	区域外就学について
〃	神石高原町英語検定料補助金交付要綱の一部改正（案）について
〃	神石高原町漢字能力検定料補助金交付要綱（案）の制定について
〃	神石高原町立グラウンド設置及び管理条例の一部を改正する条例（案）について
〃	神石高原町運動広場施設設置及び管理条例を廃止する条例（案）について

〃	神石高原町民野球場設置及び管理条例の一部を改正する条例（案）について
〃	神石高原町社会教育施設設置及び管理条例の一部を改正する条例（案）について
〃	神石高原町公の施設における指定管理者の指定についての条例（案）について
〃	神石高原町シルトピアカレッジ設置及び管理条例の一部を改正する条例（案）について
H28.2.26	平成 28 年度児童生徒の就学について
〃	教育支援委員会への諮問について
〃	平成 27 年度版連携型中高一貫教育に係るアンケート調査結果と考察について
〃	豊松学校給食共同調理場調理等業務の民間委託事業者の選考結果について
〃	平成 28 年度教育委員会関係当初予算について （新規・拡充事業と主要事業など）
〃	平成 28 年度教育行政方針（正）について
〃	平成 27 年度卒業式並びに平成 28 年度入学式の担当校の割当について
〃	平成 28 年度学校教育の重点について
H28.3.25	区域外就学について
〃	豊松学校給食共同調理場調理等業務委託契約について
〃	神石高原町学校給食費無償化事業について
〃	神石高原町私立幼稚園第 2 子以降保育料無償化事業について
〃	シルトピアカレッジ図書館の指定管理について
〃	平成 28 年度神石高原町教育委員会事務局職員の人事異動について

〃	平成 28 年度神石高原町立小中学校教職員の人事異動について
〃	神石高原町立小中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部を改正する規則について
〃	指定学校の変更について

(3) 教育委員会委員の学校訪問

訪問日	訪 問 先	内 容
H27.10.14	<ul style="list-style-type: none"> ・油木小学校 ・神石高原中学校 ・神石小学校 ・三和中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・14日の午後は、神石高原町議会総務文教常任委員会と合同訪問 (神石小・三和中・教委意見交換)
H27.10.28	<ul style="list-style-type: none"> ・三和小学校 ・来見小学校 ・豊松小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観 ・学校教育内容など ・学校施設及び学校運営等条件整備について

Ⅲ 点検評価の結果

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	個に応じたきめ細かな指導
短期経営目標	確かな学力の向上

1 短期経営目標(具体)

主に、次のことに取組み、学力向上を図る。

- ①広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果分析
- ②授業力向上の研修
- ③外国語活動を中学校へスムーズに接続
- ④読書習慣の定着
- ⑤複式学級対応の非常勤講師を配置

2 取組・方策

- ①各学校における結果分析及び町教育委員会による分析結果の提供
 - ・各学校ごとに課題となる問題の分析及び改善スケジュールの作成・実施。
 - ・町教育委員会において、小中学校別にデータ分析し各学校に情報を提供。
- ②課題分析・指導方法改善の研究協議
 - ・各校の課題とそれに対する指導方法改善の状況について、進捗状況及び成果と課題を協議し、更なる指導方法の改善を図った。
 - ・中学校区で課題を共有し、小中が連携しての指導方法改善に向けて研究協議を行った。
- ③授業力の向上研修
 - ・広島大学大学院 木下准教授、筑波大学付属小学校 青木教諭を招聘し、授業力の向上研修を行った。
- ④中学校外国語科スタートカリキュラム・CAN-DOリストの改善
 - ・目標を明確にし、生徒の実態に合わせた指導を展開、改善を図る。
- ⑤各学校において、児童会や生徒会活動、学校だより等により本の紹介・家庭での読書の呼びかけを実施。
- ⑥複式授業対応非常勤講師の配置
 - ・豊松小学校、神石小学校、来見小学校の複式学級に、年間420時間以内で配置し、国語・算数・理科・社会・及び図工・総合的な学習の時間等の単式授業として展開。

3 評価

評価指標	広島県「基礎・基本」定着状況調査
実績値(平成26年度)	小国77.1(+5.3), 小算88.0(+10.0), 小理74.9(+4.3), 中国79.1(+5.4), 中数71.8(+1.6), 中理60.0(+5.0), 中英66.5(-1.7)
目標値(平成27年度)	県平均値を上回る
総合評価	A

平成27年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果

学年	国語	算数／数学	理科	英語
小学校5年生	79.0(4.3)	76.1(4.5)	74.2(8.9)	—
中学校2年生	82.7(9.1)	81.0(10.6)	60.5(10.3)	77.0(8.8)

※()内は、広島県平均との差

<考察>全ての教科において県平均を上回っている。取組に対して一定の成果が見られる。

4 改善策

- ①調査対象学年のみでなく、全学年での基礎基本の定着
- ②全教職員間での課題の共有及び小中学校間での課題の共有
- ③教師の授業力向上研修の充実
- ④中学校における読書習慣定着に向けた取り組みの充実

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	生徒指導等の充実
短期経営目標	豊かな心や健やかな体の育成

1 短期経営目標(具体)

「不登校」への対応として「不登校を未然に防止する取組」と「不登校児童生徒の学校復帰をめざした指導と支援」の二つの視点で取り組む。
 また、「いじめ」に対しては、受けている児童生徒の立場に立って指導し、「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で指導することにより、不登校児童生徒及び「いじめ」を減少させる。
 健やかな体を育成するため、日常から体を動かす習慣をつける。

2 取組・方策

- (1) 組織的な生徒指導体制の確立に係る研修(年1回)
 教頭研修において、生徒指導上の危機管理体制確立を目的とした内容を扱い、いじめや不登校児童生徒、問題行動等に対する組織的な取組態勢の確立について指導した。
- (2) 児童生徒の欠席状況調査(毎日)
 児童生徒の欠席状況を把握し、欠席日数が多い児童生徒に対して、早期対応として担任と生徒指導主事による家庭訪問を実施することにより、未然のうちに不登校対策に努めた。
- (3) 問題行動の実態把握と指導
 月末に集約し、実態把握と必要な指導や学校訪問を行った。
- (4) スクールカウンセラーの活用
- (5) 各学校の体力づくり計画に基づいて取組

3 評価

評価指標	不登校				いじめ(1,000人あたりの認知件数)			
	神石高原町		広島県		神石高原町		広島県	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
実績値(平成26年度)	0.28%	2.91%	0.47%	2.56%	8.4件	0.0件	5.0件	8.2件
目標値(平成27年度)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.0件	0.0件	0.0件	0.0件
実績値(平成27年度)	0.30%	2.80%	未集計	未集計	3.0件	0.0件	未集計	未集計
全国体力テスト								
平成27年度実績値 (体力合計点(T得点) による) ※目標: 県平均以上	神石高原町		広島県	差	小学校の女子は、県数値をやや下回ったが、小中学校男子及び中学校女子は県数値を上回っている。 ※T得点: 全国平均を50とした場合の、相対的な位置を示す数値で、標準偏差(調査結果の個人差の大きさ)が異なる調査結果を比較するもの。			
	小男	55.8	52.4	3.4				
	小女	52.5	52.6	△ 0.1				
	中男	55.9	51.8	4.1				
	中女	54.4	51.7	2.7				
総合評価	B							

4 改善策

- (1) 教職員間の意識統一
- (2) 学期末毎のアンケート等により児童生徒の実態把握を行い、不登校傾向児童生徒、いじめへの早期対応のための指導を強化する。
- (3) スクールカウンセラーの活用や子育て支援ネットワーク会議との連携強化を図る。
- (4) 関係機関との連携(児童福祉, 保健, 県等)
- (5) 定期的な学校訪問
- (6) 日常的に体力増進に努める学校生活づくりの検討, 実践。
- (7) 業間体育の推進

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	情報の公開及び学校評価・自己評価の推進
短期経営目標	信頼に応える学校づくり ・情報発信及び学校評議員、学校関係者評価委員の意見を学校経営に活かす

1 短期経営目標(具体)

①学校評価の充実 学校評議員、学校関係者評価委員会の充実 ②情報発信 学校だより及び学校HP(ホームページ)による情報発信 ③教職員の不祥事防止 町不祥事防止対策協議会の取組の充実

2 取組・方策

①学校評価の充実 学校評議員や学校関係者評価委員への来校依頼、学校関係者評価委員会の定期的開催及び意見の学校経営への反映。 ②情報発信 学校だよりの配布・配信の徹底、学校HPの定期的な更新等により、学校の様子が地域保護者にわかるようにする取組。 ③教職員の不祥事防止 各校に設置している不祥事防止委員会の機能化及び研修の充実等の取組を、町不祥事防止対策協議会において検証・意識調査分析等を行った。

3 評価

評価指標	①学校評議員・学校関係者評価委員への積極的な来校依頼 ②学校HPを年間5回以上更新した割合 ③不祥事の生起件数
実績値(平成26年度)	①学校評議員、学校関係者評価委員への積極的な来校依頼 100% ②学校HPを年間5回以上更新した 100% ③不祥事案の発生件数 3件(交通事故・加害 ※懲戒処分無し)
目標値(平成27年度)	①100% ②100% ③0件
総合評価	A

平成27年度実績

①学校評議員、学校関係者評価委員への積極的な来校依頼 100% ②学校HPを年間5回以上更新した 100% ③不祥事の生起件数 0件 <考察> ①各種行事、参観日等に積極的に来校依頼している。 ②校区内全戸配布や回覧板形式で、学校の様子は広く情報提供されている。 ③交通事故(人身・加害)が年間0件に減少した。これに安心することなく、教職員の意識向上を図る。

4 改善策

①町不祥事防止対策協議会の充実 服務規律に係る研修の充実と教職員の意識向上。 ②各校のホームページの充実 定期的な更新及びその内容について点検・指導の充実。 ③身近な学校づくり 学校評議員・学校関係者評価委員の活動状況の検証を行い、より一層、学校と地域の連携を図る。
--

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	教育環境の整備
短期経営目標	耐震化対策

1 短期経営目標(具体)

- ・非構造部材の耐震化を推進する。
- ・本年度は、来見小学校校舎大規模改修工事を実施する。

2 取組・方策

- ・築後30年を経過した来見小学校について、平成25年度に校舎の耐力度及び外壁調査を実施し、老朽化度合いを判定した結果、「危険改築事業」の対象とはならないものの、外壁の劣化が著しいこと判明したことから防水・塗装改修を行うこととした。
整備内容は、来見小学校校舎(RC3階建て 1,761㎡)について、外壁修繕、屋上防水、内装等、非構造部材の耐震化を実施。(事業費79,768千円)
- ・町内7小中学校の非構造部材の耐震調査を実施。

3 評価

評価指標	耐震補強工事の実施済棟数割合	統合中学校建設
実績値(平成26年度)	非構造部材の耐震化を順次実施 (神石小学校体育館天井改修)	事故繰越となった一部工事を実施、完了した。
実績値(平成27年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・来見小学校校舎改修及び非構造部材の耐震化を実施した。 ・町内7小中学校(来見小校舎を除く)の非構造部材耐震調査を実施した。 	
総合評価	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度に神石高原中学校が開校し、本町は小学校5校、中学校2校体制による教育環境整備が図られた。 ・平成27年度は来見小学校校舎の大規模改修を実施し学習環境の改善が図られた。 		

4 改善策

- ・平成27年度に実施した調査結果を踏まえ、随時、非構造部材の耐震化を図る。

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	教育環境の整備
短期経営目標	連携型中高一貫教育の推進と持続可能な中等教育システムの確立

1 短期経営目標(具体)

<p>広島県立油木高校と町内2中学校とが連携型中高一貫教育校として、平成26年4月より本格実施となった。そこで、連携教育を今後一層充実させ、持続可能な中等教育システムを構築する。</p>

2 取組・方策

1.中高一貫教育の充実……中高一貫教育推進委員会を中心とした取組	
(1)教科連携	定期的な中高交流授業(数学・英語・音楽), 教職員研修
(2)教科外連携	進路指導・生徒指導・総合的な学習の時間等を中心とした教科外研究
(3)部活動連携	部活動交流(合同練習会)
(4)中高合同行事	油高体験入学・学習成果発表会への中学生参加, 体育祭・文化祭への相互参加 English Festivalへの共同参加, 油木高校生に学ぶ進路学習会の開催
(5)先進地視察研修	連携型中高一貫教育公開研究会への参加(大阪府立能勢高校)
2.啓発活動と油木高校魅力づくり……連携型中高一貫教育支援会議を中心とした取組	
(1)広報紙の発行	中高一貫ジャーナル(3回/年), 7つの支援(児童・生徒・保護者・町民へ配布) 中高一貫教育ガイド版600部(中学生・保護者を中心に配布)
(2)教育講演会の開催	連携型教育先進校(大阪府立能勢高校)より講師を招聘しての講演会
(3)油木高校魅力づくり	HSJ事業運営費補助, 公設塾「はやぶさ塾」の開設, 海外研修事業費補助 町外生通学定期券補助, 中高生英語検定料補助

3 評価

評価指標 ①	連携教育&魅力づくりへの関係者(中高生, 小中保護者, 地域・教員)の期待・満足度
実績値(平成26年度)	連携教育: 84.0%(中95%, 高100%, 教員57%) 魅力づくり: 76.8%(中53%, 教員86%, 保79%, 地域89%)
目標値(平成27年度)	連携教育: 80%以上 魅力づくり: 70%以上
総合評価(実績値)	A(連携教育: 87.4%(中97%, 高83%, 教員78%, 保84%, 地域95%) 魅力づくり: 78.7%(中55%, 保89%, 地域92%))
評価指標 ②	広島県立油木高校への地元率及び入学率
実績値(平成26年度)	地元率: 65.1% 入学率: 72.5%
目標値(平成27年度)	地元率: 60%以上 (県教委の指標: 50%以上) 入学率: 70%以上 (県教委の指標: 66.6%以上)
総合評価(実績値)	A (地元率: 66.2% 入学率: 90.0%)

○主な事業内容

(1)中高一貫教育の充実

- ①定期的な交流授業の更なる充実(高原中→高: 音楽10時間・英語4時間/週, 高→2中: 数学5時間/週)
- ②不定期な交流授業の実施(三和中→高: 数学10時間/年)
- ③行事連携(体育祭・文化祭への友情出演, English Festivalへの共同参加, 高校生に学ぶ進路学習会など)
- ④先進校視察研修(SGH校の大阪府立能勢高校公開研究会への参加と当校校長を招いての講演会実施)

(2)啓発活動と油木高校魅力づくり

- ①啓発活動(広報紙[中高一貫ジャーナル・7つの支援パンフ・中高一貫ガイド版]の発行, 総会・講演会の開催)
- ②油木高校魅力づくり(HSJ事業運営費補助, 公設塾「はやぶさ塾」の開設, 海外研修事業費補助, 町外生通学定期券補助, 中高生英語検定料補助 など)

4 改善策

<p>(1)中高連携教育を一層充実させ、部活動交流や生徒会交流など、生徒間交流を活発化させていく。 (2)油木高校の特筆すべき魅力支援策(通信衛星授業・はやぶさ塾・海外研修制度など「7つの支援」)を、関係生徒・保護者及び町民へ継続的にアピールしていく。 (3)油木高校Webページを魅力ある中身にリニューアル化し、外部へ積極的にアピールしていく必要がある。 (4)平成27年3月答申「油木高校の活性化策・魅力策について」を基に、更なる魅力策を検討する。</p>

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	食育の推進
短期経営目標	食育の推進

1 短期経営目標(具体)

<ul style="list-style-type: none"> ・近年、児童生徒の食生活をめぐる環境は大きく変化し、栄養の偏りや不規則な食事による肥満や生活習慣病の増加など、食に起因する問題は様々であり、問題解決のために食育を推進する必要がある。 ・食に関する専門性を持った栄養教諭を中心とし、児童生徒が「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を営むことができるよう、食育の充実を図る。
--

2 取組・方策

<ul style="list-style-type: none"> ・食育の年間計画に基づき、栄養教諭を中心に食育の授業に取り組む。 ・地場産品食材を多く使用した給食を提供するため、また、旬の食材の活用を図るため、栄養教諭・学校栄養職員や関係機関と連携し、給食に使用する食材の掘り起しや献立検討を行い、学期に1度「神石高原ランチ」を提供する(食育地産地消推進事業)。
--

3 評価

評価指標	①栄養教諭の指導時間数			
実績値(平成26年度) 県目標値:100時間以上	4月～10月まで:130時間 11月～3月まで:81時間 計:211時間			
実績値(平成27年度) 県目標値: 時間以上	指標を調査する県調査の対象校が栄養教諭配置校ではなかったため、比較することができない。			
※広島県「食に関する実態調査」による(2回/年) ※【参考】広島県「栄養教諭・学校栄養職員による『食に関する指導』実績(2回/年)」 4月～10月まで:97時間 11月～3月まで:122時間 計:219時間(うち、未配置校への指導時間数:8時間)				
評価指標	②地場産品の使用割合			
実績値(平成26年度) 県目標値:30%以上		使用 食品数	地場産品 使用食品数	地場産品の 割合(%)
	6月	328	95	29.0
	11月	304	100	32.9
実績値(平成27年度)		使用 食品数	地場産品 使用食品数	地場産品の 割合(%)
	6月			
	11月			
※「学校給食における地場産物の活用状況調査」による(2回/年) 月～金(第3週)までの5日間 調査対象:栄養教諭・学校栄養職員配置校及び共同調理場 ※平成27年度は県調査が実施されず、数値を比較することができない。平成28年度は調査実施される。				
総合評価				

4 改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭未配置校への活用を広げていく。 ・地場産品食材を積極的に取り入れるための体制づくりや、関係機関と連携を図る。
--

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	公民館・図書館を拠点とした生涯学習施設の充実
短期経営目標	学習機会の提供及び学習環境づくり

1 短期経営目標(具体)

・今日的課題や地域課題など個々に応じた学習機会の提供や情報発信に努める。

2 取組・方策

放課後子ども教室事業、公民館活動事業の実施により広く学習の場を提供し、知的で心豊かな生活、活力ある社会の実現をめざした。成人式や「J-OX」の開催により、地域への愛着を育む機会を提供した。また、平和学習の取り組みの拠点としての役目も果たしている。

3 評価

評価指標	成人式参加率	放課後子ども教室	公民館活動事業	生涯学習講座「J-OX」
実績値(平成26年度)	78名/100名	11,385 延人	37講座	3講座
目標値(平成27年度)	85名/94名	13,655 延人	35講座	4講座
実績値(平成27年度)	73名/94名	17,864 延人	36講座	4講座
総合評価	A	A	A	A

・生活に密着した教室・講座の開催により、公民館講座が生活に役立つ学習の場としての役目を果たしている。

・住民のニーズを反映した運営方法により、公民館の地域性が表れ始めている。

4 改善策

・受講生が固定化する傾向にある講座については、引き続き自発的な活動に移行するよう働きかけが必要であるとともに、開催時間の設定等、幅広い年代の人に参加してもらえる環境づくりが必要。

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	公民館・図書館を拠点とした生涯学習施設の充実
短期経営目標	図書館の充実及び図書情報の発信

1 短期経営目標(具体)

読書を通じた「教養のまちづくり」を推進する。

2 取組・方策

- ・図書システムの更改により、図書館と学校図書の相互貸し出しを行うことができる体制を整備した。相互貸借により図書の効率的な活用を図るよう、各校の蔵書図書の登録を順次行っている。
- ・「ブックスタート事業」や読書感想文コンクールなどの読書習慣定着に向けた取り組みを行うとともに、このほか、読書に親しんでもらえるように、「絵本のおはなし会」、「おはなしコンサート」の開催や図書館だよりを発行する。

3 評価

評価指標	読書感想文コンクール	図書貸出状況	図書館だより発行	おはなしコンサート
実績値(平成26年度)	468 点	32,693 冊	12回	9 会場
目標値(平成27年度)	500 点	33,000 冊	12回	9 会場
実績値(平成27年度)	465 点	31,560 冊	12回	9 会場
総合評価	A	B	A	A

- ・図書館・学校間で図書の相互貸借が行うことができるよう、図書館情報システムの更改を行い、図書の有効活用による読書事業の推進を図っている。
- ・「絵本のお話会」等読書に親しんでもらうための行事を継続して行う事で、「教養のまちづくり」に取り組んでいる
- ・「読書感想文コンクール」の一般の部を設けて募集を行ったが、応募が無かった。

4 改善策

- ・7年間継続している読書感想文コンクールは、戦後70年の節目として一般の部を設けて、広く募集を行うこととしたが平成27年度は応募が無く、PRの方法を検討する必要がある。
- ・図書システムの更改に合わせて町内の学校図書館との連携が取れる体制整備(蔵書の登録)を早期に行う。
- ・平成28年度から図書館の管理運営について指定管理者制度を導入。直営による人件費等経費の縮減部分を図書の購入費に回すことで、読書事業の推進を図る。

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	人権を尊重する社会づくり
短期経営目標	人権尊重への意識高揚, 推進体制の充実

1 短期経営目標(具体)

人権尊重の精神に徹し, あらゆる差別をなくす意欲と実践力を持った住民の育成を図り, 明るく住みよい町づくりを推進する。

2 取組・方策

・町, 町教育委員会, 社会教育委員, 人権擁護委員, 自治振興連絡協議会等で人権学習推進実行委員会を組織しており, 公民館を中心に自治振興会単位での学習を推進する。

3 評価

評価指標	人権学習会			
実績値(平成26年度)	34団体/1,174名			
目標値(平成27年度)	35団体/1,200名			
実績値(平成27年度)	35団体/1,028名			
総合評価	B			

・全自治振興会及び各地域の社会福祉施設で学習会を行うことができた。
 ・学習資料として貸出したDVDの本数が少なかったことにより, 希望する資料での学習が行えない地区等もあった。

4 改善策

・自治振興会単位での学習会が定着しているが, 地域で一人でも多くの人に参加をしてもらうには, この方法が現時点では効率的であると思われる。しかし, 人権の取り組み課題として挙げられている17項目のそれぞれを取り上げての学習はなかなか行うことができない。
 ・神石高原人権学習推進実行委員会総会でその年のテーマを決めて, テーマに合った学習資料を用意することが必要と考えられる。平成28年度は, 委員の研修テーマとして, 性的マイノリティの人権についてビデオ研修を実施する。

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	スポーツの振興
短期経営目標	体育協会並びにスポーツ少年団への支援

1 短期経営目標(具体)

スポーツの推進と普及活動

2 取組・方策

・スポーツ推進委員を中心に、幅広い年代で取り組めるニュースポーツの取り組みに力を入れることで、生涯スポーツの推進を行っている。
 ・地域スポーツの中心を担う体育協会や、スポーツ少年団については、運営内容や実態について見直しを行い、併せて補助金の見直しを行った。

3 評価

評価指標	ニュースポーツ講習会	トップアスリート教室	体力検定	
実績値(平成26年度)	7回	1回	0回	
目標値(平成27年度)	10回	2回	1回	
実績値(平成27年度)	12回	1回	1回	
総合評価	A	C	C	

・公民館講座でのスポーツ教室の開催などで一般向けのニュースポーツの普及を年間を通して行うことが出来た。
 ・児童を対象にした体力測定の実施は、学校側の要請が無かったため今年度も行うことができなかった。

4 改善策

・引き続き、スポーツ推進委員の活動を広く町民へ周知し、委員本来の職務である、地域でのスポーツ推進活動に積極的に取り組む必要がある。
 ・スポーツ推進委員の後継者の育成を具体的に考えていく時期に来ている。
 ・学校教育との連携を図り、子どもの体力の向上に関わることで、地域の体力向上の底上げを行う。

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	文化財の継承・保存
短期経営目標	質の高い芸術並びに文化の提供

1 短期経営目標(具体)

質の高い芸術・文化の体験, 鑑賞ができる機会の提供を行う。

2 取組・方策

・町文化連盟の活動支援を行うとともに, 質の高い芸術・文化の体験, 鑑賞ができる機会の提供や, 文化・芸能の拠点となる施設の管理運営を行う。

3 評価

評価指標	町文化連盟	巡回演奏会		
実績値(平成26年度)	85団体/876名	小学校5校・中学校2校		
目標値(平成27年度)	89団体/876名	小学校5校・中学校2校		
実績値(平成27年度)	85団体/815名	小学校5校・中学校2校		
総合評価	B	A		

・文化連盟に対しては, 補助金の交付など側面的な支援を行う事で自主的な運営を行っている。
 ・巡回演奏会では, 質の高い芸術に触れる機会の提供を行い, 音楽教育や情操教育の役目を果たしている。

4 改善策

・町民文化祭, 県民文化祭の開催などにより, 多くの町民が, 文化・芸術の鑑賞ができる場の提供を行う。
 ・さんわ総合センターの文化ホールとしての機能, 強化を図るため, 現行の体制について見直しを行う。

平成27年度 点検評価票

中期経営目標	文化財の継承・保存
短期経営目標	文化財の保存及び継承

1 短期経営目標(具体)

文化財が町の歴史、文化等の理解、将来の発展のために欠くことのできないものであることを認識し、それらを保存、活用する。

2 取組・方策

- ・町指定文化財、古文書を含む歴史的文書等の保存、活用等について協議、検討するとともに、予算の範囲内での補助・助成を行う。
- ・民俗資料館の運営及び文化財の発掘調査を行う。

3 評価

評価指標	町指定文化財	古記録保管庫の目録の作成		
実績値(平成26年度)	77	1,350 千円		
目標値(平成27年度)	—	2,301 千円		
実績値(平成27年度)	80	2,233 千円		
総合評価	—	A		

- ・平成26年度からの古記録の整備により、行政古文書が歴史的資料として整理された。
- ・新たに3点(棟札、神道裁許状、証文)を町指定文化財として登録した。
- ・帝釈峡遺跡群の調査については、平成27年度でいったん終了となり、平成28年度から、当時の自然環境や植物の生態を調査する。

4 改善策

- ・指定文化財等の所有者・保持者の高齢化、後継世代の育成の課題等もあり、従前の管理、継承が困難な状況になりつつある。
- ・既存の文化財の確認を行うとともに、地域の共有財産としての扱い方を検討しなければならない。
- ・文化財の専門員が不在の町教育委員会であるため、文化財保護委員に町内にある民俗資料館の収蔵物について知識を習得してもらう事により、説明員の役目を担ってもらう事が必要となっている。

IV 外部評価委員の意見

今日、我が国の教育を取り巻く状況は、少子高齢化の進展、地域社会、家族の変容、社会格差の増大・固定化、産業構造・雇用の変化、グローバル化の進展等課題が山積しています。こうした社会の構造変化に対応して、どのような社会システム・教育が必要か教育行政には求められています。

本町においても、教育を取り巻く状況は同様であり、こうした社会構造の変化、求められる状況の変化に対応して、子どもたちに安心して学べる状況、安全な環境、生涯、神石高原町に住んでよかったと思える社会教育の推進が町教育行政には求められています。

1 教育委員会の活動

本町の教育委員会会議は、定例化され審議内容も多様で論議が尽くされ施策執行が行われており、十分にその機能を果たしていると認められます。

教育委員会においては、小・中学校教育への学校訪問で校長からの学校経営の意見聴取や授業参観等を通して児童生徒の実態に触れられ、学校現場の様子を適切に把握されています。また、学力についても向上が見られ、保護者・地域住民の信頼を得ていると言えます。

教育施設整備については、計画的に着実に整備されており、今後とも児童生徒の安心安全のために努力していただきたいと思います。

学校教育活動は、児童生徒のやる気と学校長を含め指導者のやる気です。

学校課題を解決していくための学校長の学校経営方針を把握して、必要な人材を配置できるよう配慮することが重要だと考えます。

また、道徳教育、人権教育、国際教育、食育等、すぐに成果が出るものではないと思いますが、子どもたちの将来を考えると欠かすことのできないものであり充実していただきたいと思います。

芸術・文化の振興、生涯スポーツの推進についても着実に実績が上がっていると思います。

2 点検評価票

点検評価票については、「平成27年度教育行政方針」を基に、前年度の主要な事業ごとの取り組みを評価して改善策をあきらかにし、執行した結果が分かりやすく的確に示されています。

① 学校教育

・平成27年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果から、本町は県平均の通過率をほぼ上回っており、このことから本町の児童生徒には確かな学力が定着しているということと教職員の指導力の向上もあったといえます。

児童生徒数が減少する中での調査であり、今後も、結果だけにとられることなく確かな学力の向上のために、教職員の指導力の向上に向け、教育委員会も研鑽を積み、適切な指導の下で成果を上げていただきたいと思います。

・健やかな体の育成という点では、年々向上が見られ関係者の努力が報われてきていると思います。また、不登校、いじめについては数値にとられることなく、不登校傾向のある児童生徒、いじめに発展しかねない事案もあると考えられます。都市部と違い、固定した人間関係の中で、児童生徒への指導の在り方、保護者対応は難しいところがあると思いますが、画一的な指導ではなく、公平性を持ちながら実態を踏まえ、個に応じたきめ細かい指導ができるよう教育委員会も学校への指導を続けてほしいと思います。

・教育環境づくりでは、計画的に整備、改修が行われています。今後は、児童生徒の安心安全という点から、エレベーターのない学校には設置を考えていく必要があるのではないかと思います。

・連携型中高一貫教育の推進では、油木高校の魅力を様々な機会を通して町内外に発信をされ成果も上がっています。今後、ますます生徒数が減少してくる中で更なる工夫も必要になってくるかとも思いますが、知恵を出し合い推進してほしいと思います。

② 生涯教育

・生涯教育では、公民館を拠点に地域の教育力を活かした講座や外部講師を招聘した講座、自主サークル等多くの学ぶ機会が提供されており、今後も町民から維持継続、そして発展していくことを期待されています。

受講生が固定する傾向にあるという課題については、広報活動もよくされており、講座の中身を充実させていくことで、少しずつでも参加者を増やしていくことが一つの方策ではないでしょうか。

・図書館事業は、「教養のまちづくり」の重点です。利便性の強化、情報発信をしっかりとしながら、引き続き地道な積み上げをしていただきたいと思います。

・スポーツ振興では、グランドゴルフは町民の幅広い年齢層のスポーツレクリエーションとして普及しています。児童生徒の体力向上に向けては、トップアスリートの招聘を積極的に推進して、子どもたちに夢を与え、スポーツの楽しさ、素晴らしさを味わわせていくことが有効ではないでしょうか。

③ 豊かな歴史と文化の育成，振興

・さんわ総合センターを中心に多くの町民が文化，芸術に接する機会が提供されています。また，文化連盟や自主サークル団体発表の場も多く提供されています。

・児童生徒に対しても，ふくやま芸術文化ホールと連携して，毎年工夫された音楽鑑賞が実施されています。こうした機会に恵まれない町内児童生徒は楽しみにしています。今後も継続してほしいと思います。

・文化財の継承・保存では，先人の残された功績を継承・保存することは，我々の努めであり，そうした活動に支援が必要です。

3 総合評価

今回，教育委員会事業の項目について点検・評価を実施しましたが，良好な成果が達成されているものと評価しました。

町教育行政は，町内外の若者がこの地で子育てをしたいと思える安心安全で魅力的な教育環境づくりをしていくことと，神石高原町で生涯を過ごしてよかったと思える生涯教育の充実が大きな使命であると考えます。

町教育委員会におかれましては，この点検評価に満足することなく，国・県の施策を踏まえながらも，町民の期待に沿うよう独自性のある施策を充実させるとともに，長期的なビジョンをもって職務を遂行していただきたいと思います。より素晴らしい教育委員会になるよう念願し，これまでの努力に敬意と感謝を申し上げ，総合評価とします。

平成28年8月17日
外部評価者 高石 昭文

V 資料1 平成27年度神石高原町教育委員会 自己評価表

	中期経営目標 (長期総合計画)	短期経営目標 (平成27年度教育行政方針)	評価項目	評価指標	実績値 (()は、広島県平均との差)		目標値		評価 (自己評価の結果)	改善策	
					H26	H27	H26	H27			
学 校 教 育	学力の定着 及び向上	個に応じたきめ細かな指導	○確かな学力の向上 ・授業力の向上 ・情報教育の充実 ・外国語活動を中学へ接続 ・読書活動の充実 ・特別支援教育の充実 ・複式教育の充実	・各種学力調査を行い、結果を分析し、授業改善に活かし児童生徒がわかる授業を行う。	・広島県「基礎・基本」 定着状況調査	小国 77.1(+5.3) 小算 88.0(+10.0) 小理 74.9(+4.3) 中国 79.1(+5.4) 中数 71.8(+1.6) 中理 60.0(+5.0) 中英 66.5(-1.7)	小国 79.0(+4.3) 小算 76.1(+4.5) 小理 74.2(+8.9) 中国 82.7(+9.1) 中数 81.0(+10.6) 中理 60.5(+10.3) 中英 77.0(+8.8)	前年度数値を上回る	前年度数値を上回る	A	・全ての教科について、いずれも県平均を上回っており、学力向上に一定の成果が見られる。 ・調査対象学年のみでなく、全学年での基礎基本の定着 ・全教職員間での課題の共有及び小中学校間での課題の共有 ・中学校における読書週間定着に向けた取り組みの充実
	体験活動等の充実	○豊かな心や健やかな体の育成 ・道徳教育の充実 ・いじめ・不登校の未然防止 ・宿泊体験活動の充実 ・スポーツテストの向上	・「不登校を未然に防止する取組と「学校復帰をめざした指導と支援」の視点で取り組む。 ・「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で指導する。 ・全国体力テストの実施	・不登校 ・いじめの認知件数 ・体力テスト指数	・不登校 小 0.28% 中 2.91% ・いじめ(1,000人当りの認知件数) 小 8.4件 中 0.0件 ・全国体力テスト 小5男 54.0(-2.0) 小5女 59.4(+2.2) 中2男 42.8(-0.8) 中2女 52.8(+2.3)	・不登校 小 0.30% 中 2.80% ・いじめ(1,000人当りの認知件数) 小 3.0件 中 0.0件 ・全国体力テスト 小5男 55.8(+3.4) 小5女 52.5(-0.1) 中2男 55.9(+4.1) 中2女 54.4(+2.7)	認知件数ゼロ	認知件数ゼロ	B	・担任や生徒指導主事による継続的な家庭訪問を実施した。 ・特に中学校においてはいじめを許さない継続的な取組が功を奏している。 ・小女は県平均をわずかに下回ったが、小中男及び中女は県平均を上回った。 ・教職員間の意識統一 ・児童生徒の実態把握と早期対応 ・スクールカウンセラー等との連携強化 ・関係機関との連携 ・定期的な学校訪問 ・日常的に体を動かす取組が必要 ・業間体育の推進	
	教育環境づくり	情報の公開及び学校評価・自己評価の推進	○信頼に応える学校づくり ・情報発信及び学校評議員、学校評価委員会の意見を学校経営に活かす	・学校の情報を保護者・地域へ発信し、保護者・地域の意見を収集し、学校経営に活かす。	① 委員への来校依頼 ② 学校ホームページの5回以上更新 ③ 不祥事生起件数	① 100% ① 100% ② 交通事故3件(懲戒処分無し)	① 100% ③ 100% ④ 0件	① 100% ② 100% ③ 0件	① 100% ② 100% ③ 0件	A	・不祥事生起件数を含め目標を達成できた。 ・各種行事や参観日等に積極的に来校依頼している。 ・学校の様子は、広く情報提供されている。 ①町不祥事防止対策協議会の充実 ・勤務規律に係る研修の充実 ②各校のホームページの充実 ・定期的な更新 ③身近な学校づくり ・学校評議員・学校関係者評価委員の活動状況の検証を行い、学校と地域の一層の連携を図る。
	耐震対策及び学校再編計画	○教育環境の整備 ・来見小学校大規模改修 ・非構造部材の耐震化調査	・子ども達の学ぶ意欲を高め、学校生活に夢と潤いを与え、たくましく生きる力を育む教育活動を支えるために、安全で快適な教育環境整備を行う。	・来見小学校大規模改修 ・非構造部材耐震化調査の実施	学校校舎耐震化はH25年度完了 小 100% 中 100%	工期内に完了し、計画通り実施出来た。	非構造部材の耐震化の推進	非構造部材の耐震化の推進	A	・計画通り実施したが、引き続き、非構造部材の耐震化を図る必要がある。 ・非構造部材の耐震化等の計画的な実施	

			○中高一貫教育 ・連携型中高一貫教育の推進	・平成 26 年度から本格的に実施している「連携型中高一貫教育」の一層の推進に向け、「推進協議会」や「支援会議」との連携と中高の交流事業を充実し、持続可能な中等教育システムの構築を図る。	・各関係者の満足度 ・油木高校への町内入学率(地元率) ・入学率	84.0% 65.1% 72.5%	87.4% 66.2% 90.0%	① 75%以上 ② 75%以上 ① 60%以上 ② 60%以上 ①70%以上 ②70%以上	A	・油木高校への関心や期待、満足度は、目標を達成した。 ・町内中学校からの入学率(地元率)についても、目標数値を達成している。	・中高連携教育を一層充実させ、部活動交流や生徒会交流など、生徒間交流を活発化させていく。 ・「7つの支援」等、魅力支援策を継続的にアピールする。 ・油木高校 web ページをリニューアルし、外部へも積極的に垂P-ルしていく必要がある。 ・油木高校活性化策・魅力策をもとに更なる魅力策を検討する。
		食育の推進	○食育の推進 ・児童生徒が健全な食生活を営むことができるよう食育の充実を図る	・食育の授業を通じて、望ましい食習慣や食に関する正しい知識と食を選択する力を身につけさせる。	・栄養教諭の指導時間数 100 時間以上 ・地場産品の使用割合 県目標値以上	211 時間 32.9%	219 時間 ※指標調査となる県の対象校が栄養教諭配置校でなかったため前年度との比較は出来ないが、栄養教職員による指導実績は219時間であった。 H27 は県の調査未実施。(H28 は実施される)	前年度数値を上回る 前年度数値を上回る 30%以上 30%以上	—	・栄養教諭の指導時間数は、県の目標値を超えた。 ・地場産品の使用割合は、概ね目標どおり。	・栄養教諭未配置校への活用を広げていく。 ・地場産品食材を積極的に取り入れるための体制づくり ・関係機関との連携 ・地場産品の使用割合調査の頻度(学期ごとに実施)
生涯学習	生涯学習の推進	公民館・図書館を拠点とした生涯学習施設の充実	○生涯学習・社会教育の振興 ・学習機会の提供及び学習環境づくり ・図書館の充実及び図書情報の発信	・生涯の各時期における生涯学習の充実については、乳幼児から高齢者に至るそれぞれの時期に対応した学習機会の提供に努める。	・各行事の参加人数 ・成人式 ・放課後子ども教室 ・公民館活動事業 ・J-OX	78.0% 11,385 延人 37 講座 3 講座	77.7% 17,864 延人 36 講座 4 講座	多種多様な情報提供を行い、小学生から高齢者までの幅広い年代層の参加を図る。 多種多様な情報提供を行い、小学生から高齢者までの幅広い年代層の参加を図る。	A	・成人式や J-OX の開催により、地域への愛着を育む機会を提供した。 ・生活に密着した教室・講座の開催により、公民館が生活に役立つ学習の場としての役割を果たしている。 ・住民のニーズを反映した運営方法により、公民館の地域性が現れ始めている。	・受講生が固定化する傾向にある講座については、自発的な活動に移行するよう働きかけが必要であり、開催時間の設定等、幅広い年代の人に参加してもらえる環境づくりが必要である。

			<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じた「教養のまちづくり」を推進し、「ブックスタート事業」や読書感想文コンクールなどの読書習慣定着に向けた取り組み、気軽に本を親しめる「ブック・クロッシング」の充実など、読書に親しめる環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応募点数, 貸出冊数, 発行回数, 実施数 	<ul style="list-style-type: none"> 読書感想文コンクール 468 点 	<ul style="list-style-type: none"> 読書感想文コンクール 465 点 	<ul style="list-style-type: none"> 書く力を身に着けるため、図書館等において、書き方教室等の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く力を身に着けるため、図書館等において、書き方教室等の開催。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書貸出状況は前年度に比して減少した。 ・図書館と学校との間での図書の相互貸借が出来るよう図書館情報システムの更改を行ない、図書の有効活用による読書事業の推進を図っている。 ・「絵本のお話会」等、読書に親しんでもらうための行事を継続して行うことで、「教養のまちづくり」に取り組んでいる。 ・読書感想文コンクールでは一般の部を設け募集したが応募は無かった。 ・図書館だより、おはなしコンサートは計画通り実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書感想文コンクールは戦後70年の節目として、一般オブを設け募集したが応募が無かったことから、PR方法を検討する必要がある。 ・図書館においては、図書システムの更改に併せて町内の学校図書との連携を順次進めて行く。
	人権を尊重する社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重への意識高揚、推進体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育の基底に位置づけて、地域の状況に即した住民学習を生涯学習として促進し、町民の人権尊重への意識高揚、推進体制の充実に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習会 34 団体 1,174 名 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習会 35 団体 1,028 名 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの人権を尊重し、住みよい町とするため、指導者研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの人権を尊重し、住みよい町とするため、指導者研修を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての自治振興会及び各地域の社会福祉施設で学習会を開催することが出来た。 ・学習資料として貸し出した DVD の本数が少ないため、希望する資料での学習が出来なかった地区もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治振興会単位での学習会が定着している。地域で一人でも多くの人に参加してもらうには、この方法が有効であると思われるが、人権の取組課題として掲げられている17項目各々を取り上げての学習は困難である。 ・人権学習推進実行委員会総会で、その年のテーマを決め、テーマに合わせた学習資料を用意する必要がある。
	スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯スポーツの推進 ・体育協会並びにスポーツ少年団への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・低下傾向にある子どもの体力を重視し、スポーツ教室やトップアスリート派遣事業などスポーツに親しみをもち、体力や技術の向上に向けた事業の展開を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会や各種教室などの活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツ講習会 7 回 ・トップアスリート教室 1 回 ・体力検定 0 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツ講習会 12 回 ・トップアスリート教室 1 回 ・体力検定 1 回 	<ul style="list-style-type: none"> プロ選手を招聘し、専門的な指導を行ってもらい、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> プロ選手を招聘し、専門的な指導を行ってもらい、体力の向上を図る。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育行政計画の一つであるニュースポーツの普及は年間を通じ行うことが出来たが、児童を対象にして体力測定は今年度も実施出来なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の活動を広く町民へ周知し、地域でのスポーツ推進活動に積極的に取り組む必要がある。 ・スポーツ推進委員の後継者育成 ・学校教育との連携し、子どもの体力向上に関わることで、地域の体力向上の底上げを図る。

豊かな歴史と文化の育成, 振興	<ul style="list-style-type: none"> 文化団体の育成及び支援 	<p>○芸術・文化の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> 質の高い芸術並びに文化の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術や文化活動の推進では、町文化連盟の活動支援を行うとともに、質の高い芸術や文化の体験、鑑賞ができる機会の提供に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い芸術や文化の体験の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 町文化連盟 85 団体 876 人 巡回演奏会 小学校 5 校 中学校 2 校 	<ul style="list-style-type: none"> 町文化連盟 85 団体 815 人 巡回演奏会 小学校 5 校 中学校 2 校 	<p>町文化連盟の支援を行い、町民の文化芸術に関する関心を高める。</p> <p>ふくやま芸術文化ホールと連携し、プロの演奏を児童生徒に聞かせることにより、音楽に関する感性を育てる。</p>	<p>町文化連盟の支援を行い、町民の文化芸術に関する関心を高める。</p> <p>ふくやま芸術文化ホールと連携し、プロの演奏を児童生徒に聞かせることにより、音楽に関する感性を育てる。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 文化連盟に対しては、補助金の交付など側面的な支援を行うことで自主的な運営を行っている。 巡回演奏会では、質の高い芸術に触れる機会の提供を行い、音楽教育や情操教育の役目を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 町民文化祭、県民文化祭の開催等により、多くの町民が文化・芸術の干渉が出来る場を提供する。 さんわ総合センターの機能・教科を図るため、原稿の態勢について見直しを行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の継承・保存 	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存及び継承 	<ul style="list-style-type: none"> 古文書等の目録を作成し、少しずつではあるが保存施設を整備している。今後、分類整理を行わない保存管理に努める。 町内外の個人所有に係る文化財についても、調査・収集・保管に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 古文書等の目録を作成し、少しずつではあるが保存施設を整備している。今後、分類整理を行わない保存管理に努める。 町内外の個人所有に係る文化財についても、調査・収集・保管に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 古文書等の分類整理・保存管理 発掘調査の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 古記録保管庫の目録の作成 1,350 千円 	<ul style="list-style-type: none"> 古記録保管庫の目録の作成 2,230 千円 	<p>古記録保管庫内の目録の作成及び整理を行いながら、各支所が所有する行政文書の収集を行う。</p>	<p>古記録保管庫内の目録の作成及び整理を行いながら、各支所が所有する行政文書の収集を行う。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> H26 年度から実施した古記録の整備により、行政古文書が歴史的資料として整理された。 町指定文化財として新たに 3 点を登録した。 帝釈峽遺跡群調査は H27 年度でいったん終了し、H28 年度から、当時の自然環境や植物の生態を調査する。

V 資料2

平成27年度神石高原町教育委員会 経営計画

I ミッション

「神石高原町長期総合計画」における施策「自然と歴史を活かした教育・文化のまちづくり」の推進とともに、平成27年度教育行政方針に基づく教育行政を推進する。

II ビジョン

【町民像】

- 学校教育では、神石高原町の将来を担う子ども一人ひとりが、「知・徳・体」の調和の取れた「生きる力」を身につける。
- 社会教育では、子どもから大人まで町民一人ひとりが、自らの個性や能力を最大限に発揮し夢や希望・生き甲斐を持つ。

【教育委員会像】

- コンプライアンス（法令と倫理の遵守）に基づく公教育を推進する。
- 報告・連絡・相談などによる組織的な対応を目指し、迅速・確実・誠実な教育委員会を体現する。
- 総合教育会議の設置により、町長と教育委員会の一層の意思疎通を図る。
- 人事評価制度の試行年であることから、職員の目標管理を的確に行い、組織の活性化及び職員の能力開発に資するシステムを構築し、PDCAサイクルによる業務遂行を目指す。

III 現状分析

【学校教育】

- 各校における授業改善の取組が一定の成果を挙げている。H26 基礎基本定着状況調査においても中学校英語科を除き、いずれも県平均を上回り、英語科も県平均との差が小さくなった。
- 地域を題材とする道徳教材を活用した道徳の時間等を通して地域への関心や郷土愛を育み、体験学習では、町内小学校5年生全員による3泊4日の合宿体験を通して規範意識や自立心、連帯感の醸成を図っている。
- 学校からの情報発信として、学校便りやHPへの掲載、公開授業の積極的な開催に努めている。
- 校舎等の耐震化は平成25年度で100%完了したが、児童生徒の安全確保のため、引き続き、非構造部材の耐震化を図るとともに、教育環境整備の充実を図っていく。
- 豊松学校給食共同調理場について、本年度、直営から民間委託への移行を検討する。

【生涯学習】

- 住民への学習の場の提供は行われているが、幅広い年代層の参加に工夫が必要である。
- 人権学習は各自治振興会等で100%の実施率である。
- スポーツ推進委員について、後継者の育成を具体的に考えていく時期に来ている。
- 文化連盟会員の高齢化により、運営上の問題が生じている現状がある。
- 読書感想文コンクールは7年間継続しているが、応募者数は減少傾向にある。